

# Campus

## 新聞 Vol.160

今週のライター

## 横浜国立大学

有志学生記者 内藤秀治さん

## Climate Youth Japan 世界にメッセージ発信

学生や若手社会人で組織する団体「Climate Youth Japan」(CYJ)は、地球の未来に重大な影響を及ぼす気候変動問題について、未来を担う若者が主導して解決を目指す活動を行っている。気候変動に関する国際会議で政策決定への若者の参画の重要性を訴えるメッセージを発信。昨年12月にペルー・リマで開催された「国連気候変動枠組み条約第20回締約国会議」(COP20)にも5人を派遣した。2月には仙台、東京、福岡で派遣報告会も開催する。CYJに所属し、COP20にも参加した横浜国立大学理工学部3年の学生記者、内藤秀治さん(21)が、取り組みについてレポートする。

# 気候変動問題 若者主導で解決目指す



CYJは2010年春に、前年にデンマークのコペンハーゲンで開催されたCOP15に参加した若者(ユース)によって設立されたネットワーク型NGOだ。現在、メンバーは学生を中心に若手社会人も加え17人。東京、京都、福岡など全国のユースで組織されている。

### 定期的にワークショップ

「ユースが気候変動問題を解決に導き、衡平で持続可能な社会を実現する」という理念を掲げ、イベントの企画・運営や国際会議へのメンバー派遣のほか、他団体との協力によるイベント開催などさまざまな活動を行っている。

中でも定期的に行っているのが、気候変動問題に焦点を当てたワークショップだ。最近では、昨年3月に横浜市で「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)の総会が開かれたのに合わせて、国立環境研究所の江守正多氏を招き、気候変動と科学を見つめ直すワークショップを開催した。

地球環境問題について市民レベルでの

活動を続けている田中優氏を講師に招いたワークショップでは、COP20に向け「今、私たちが目指すべき世界は、どのような世界か?」について考えた。「若者が作る環境」をキーワードに、環境、デザイン、政治、都市などさまざまな分野で活躍する30歳未満の専門家をゲストに招いたワークショップでは、お酒を楽しみながらカジュアルな雰囲気の中で自分たちができること、やるべきことについて話し合った。

今後の予定では、3月14日から仙台で開催される「世界防災会議」の市民フォーラムで、「気候変動×防災」をテーマにしたワークショップを開催する。3月末には、関西で開催される「超若者会議」にメンバーがゲスト出演する予定だ。気候変動について、CYJがどのような意見を持ち、どのような活動を行っているのか、より多くの人に知ってもらう機会として、今後も積極的にワークショップを開催していく計画だ。

CYJでは、気候変動は地球の未来に深刻な影響を及ぼす問題だからこそ、

「未来を担う若者が立ち上がるべきだ」との認識に基づき、これまでのワークショップや内部での勉強会を踏まえ、意見をまとめた声明を国際会議などに合わせて発表している。声明は国の環境省、外務省、経済産業省に提出し意見交換も行ってきた。

### サミットやCOPで声明

昨年9月に各国の首脳級が出席して地球温暖化対策を討議する気候変動サミットがニューヨークの国連本部で開催された際には、気候変動に関する政策決定過程への若者の参画を求める声明を発表した。この中で、気候変動問題に取り組む若者の力が最大に発揮される機会を設けることや、持続可能な社会の実現のため、若者が貢献できるようにすることが重要であると訴えた。この声明は、世界各国のユース団体を中心に約20団体からの賛同を得た。

昨年12月にペルー・リマで開催されたCOP20でも、東京大学の学生団体「CCWG」とともに、それぞれ声明を発表し

CYJでは、さまざまな分野のゲストを招いて、カジュアルなワークショップを開催している

3省に提出した。声明では「気候変動に関する2020年以降の新しい枠組みにおける約束草案の早期提出」や「国内政策の見直しによる、衡平で持続可能な社会の実現への貢献」などを訴えた。CCWGは、「気候変動対策におけるリーダーシップの発揮」を求めた。

声明の提出時にはCOP20で議論される内容について、各省の担当者からレクチャーを受け、意見交換も行った。この中で、若者の参画の必要性や環境教育の重要性について議論。政策決定の場に若者の意見を届け、その意見を政策に反映することの大切さを確認した。

CYJ代表の京都大学経済学部3年、吉岡渚さん(22)は、「私たちもいつまでも若者でいられるわけではない。次のステップへ進むために今、全力で気候変動に取り組みたい」と話している。

